

## セミナー「高齢者～地域で支える」記録

主催：兵庫県、都市再生機構、兵庫県住宅供給公社、神戸まちづくり研究所、明舞まちづくりサポーター会議

日時・会場：2004年11月19日（金）19:00～21:00 明舞まちづくり広場

参加者：18名（スタッフ7名含む）

### 1. 開会挨拶（依藤庸正：神戸県民局）

日笠さんは、20年前から、須磨の月見山自治会で高齢者福祉活動をされていました。震災後、避難所だけでなく自宅にいる被災高齢者にもお弁当を利用してもらうよう神戸市に交渉し、配達をしたり、今までの活動を踏まえ97年には「住民が選択したまちの福祉」というドキュメンタリー映画上映の企画をされ、「地域の福祉は地域でやろう」とNPO設立を呼びかけ、住民から多くの賛同を得ました。98年にだんらんがスタートし、現在まで地域に密着した福祉の活動を展開されています。

今日はそれらさまざまな活動をお話いただき、皆さんと意見交換をしていただきます。

### 2. 『高齢者～地域で支える』（日笠昭子：NPO法人福祉ネットワーク西須磨だんらん）

西須磨だんらんを設立するきっかけ

西須磨だんらんの事務局長をしております日笠昭子といいます。私たちが「高齢者福祉」の取り組みをどうして始めたかというきっかけを少しお話しします。

私は、約20年前に母をなくしました。それから4年後に父が亡くなりました。母はがん性肋膜炎だったのですが、なかなか原因がわからず、神戸中央市民病院に入院したときにやっと判明いたしました。しかしがん性だということを父親には言いませんでした。父は絶対治ると信じて「春になったら元気になって帰れるから」と言って、いろいろものを食べさせたり、ショッピングセンターに連れて行ったり懸命に介護を

しました。でもちっとも治らないので、「おかしいな」と言い出したので、病名を打ち明けました。

秋に告知を受けた時にはあと3ヶ月だといわれたのですが、父の介護のおかげで割合長く元気でして、あくる年の6月に家に連れて帰りました。私は同じ敷地の中に住んでいましたが、いろんな活動で忙しく、その頃ヘルパーさんなんてなかったので、家政婦さんに週に一回お掃除に来てもらい、一緒に介護しました。

その頃出ていた本で、「死ぬ瞬間」とか「病院で死ぬこと」を読んでいて、「家族の愛のこもったスープを一杯飲むこと」が本人にとって一番幸せなことだということが書いてありました。それは本当にそうだと思います。家に帰ってきてから母は、今までイタイイタイと言っていたのに言わなくなりました。そして本当に静かに息を引き取ったのです。

その後、父親があることから痴呆になり、一人で置いておくことができなくなったので、家を改造し



福祉活動の拠点となった自治会館

一緒に住むことになりました。だんだん痴呆がひどくなり（そうは言ってもひどくないほうだったとは思のだが）、外では普通に見えても家にいるときは「がなくなった」、「娘がいじめる」、時には110番をかけて「助けてくれ」とか言うようになりました。一緒に住むものにとって、介護は24時間365日いつまで続くかわからないんです。本当に大変でしたが、そのときに手伝ってくれたのは、近くに住んでいる友達でした。その友達の助けがどんなにありがたかったかということが、「高齢者を地域で見守って行こう」というだんらんを作る原点になりました。

資料の1枚は、1年前の新聞の切り抜きですが、2025年日本人の3人に1人が65歳以上になり(平均年齢は51歳)、道を歩くとたぶん3人に1人どころか2人に1人がお年寄りという時代になります。この記事から、8割の高齢者が自分の家で最後まで暮らしたいと望んでいます。それは軽い介護を受けるようになると減ってきます。そして、ボケや寝たきりになるとほとんどなくなります。それでも、自宅で住みたいと思う人はいるわけです。

介護というのは今までは、奥さんであったりお嫁さんであったり娘さんであったり、女の人の犠牲のもとに行われてきました。2000年、「介護を社会で」とうたって、介護保険制度がスタートしました。このことで「自分の家で死にたい」という願いがかなうのかなと私は思っていたのですが、どうもそうではない。やはり最後は自分の家ではなく、「どこか福祉の施設に入りたい」と、周りのお年寄りのほとんどの人が言います。現実になかなか自分の家で住み続けるということが難しいです。それでも私は自分の家で住みたいと思うので、これはまさに自分のために、自分が年をとったら最後まで家に住み続けることができる地域にしようということをおもったので、だんらんの活動をはじめることになりました。

#### 月見山自治会福祉部の取り組み

地元の月見山自治会福祉部の活動は、年1回の敬老友愛の集い程度だったのですが、月1回のふれあい食事会、年8回の高齢者福祉の勉強会を11年前の4月に始めました。しばらくして震災が起こりました。一番初めに思ったことは、避難所や仮設住宅に入っている人は救援物資がとどきますが、障害を持っていたり、年をとっている人で、「避難所に行くには不自由だし、人に迷惑もかけるし・・・」と言って、ちょっとくらの家の傾きならできるだけ家で過ごそうとしている方には、救援物資や炊き出しは届きません。そういう人にこそ食事は必要なのではないかと須磨の区役所にある災害対策本部に掛け合ったのですが、初めは特定の自治会にそんなことはできないと言われました。大分交渉し、運ぶことはできないが、自治会で配ってくれるならといわれて、1日2回4月くらいまでの配食を約3ヶ月続けました。自治会館を拠点にして世話役をしていてくれる人たちに運んでもらいました。これがその後の配食活動の基になりました。



福祉ネットワーク西須磨だんらん設立総会の様子

そういう中で「住民が選択したまちの福祉」という映画会を企画しました。今度はたくさんの人に見てもらおうというだけではすまないよと自治会の中心の人から言われて、この映画会で皆さんに住民で取り組む福祉NPOを作るといふ呼びかけとアンケートをしました。私はただの主婦だったので、清水の舞台から飛び降りるような

気持ちでやったわけです。幸い一緒にやりましょうといってくれる人もいました。もしその人がいなかったらできなかつたらうなと思います。自治会の中心の人がそういう考えを持っていてくれたこと、一緒にやろうという人があったこと、そういうものがあって、だんらんを設立することができました。何がきっかけになるかはわからないけれど、何かをしようと思っている人が、何人かいればできるんだということのを思いました。2年後、法人格をとるかどうかという話が出て、みんなは大反対で、大変なことばかりで何もメリットがないと言っていたのですが、法人格をとることによって、団体を責任と継続性を持つものにしなければいけないのではないかという話が出て、大変な過程を経て取得しました。

震災後、家が壊れたり、半壊状態になった、どこかへ避難されている人たちは、ちょっとでも家のものを出そうと月見山に帰ってきます。その人たちに会うと、たくさんの方が「みんなに会いたいな」と何回も言われるので、震災2ヵ月後の3月、幸い被害がほとんどなかった自治会館で、初めての食事会を行いました。本当に皆さんすごく感激されて、みんなに会えてよかったなといっておられました。



震災後3月に行われた第1回目の食事会

### 福祉ネットワーク西須磨だんらんの活動

#### 西須磨だんらん設立の趣旨

私たちは「こまったときはおたがいさま」の精神に基づき、地域に住む人同士、お互い助け合って、住み慣れたところで誰もが安心して暮らし、最後まで生きられる福祉コミュニティ作りを目指します。

#### 事業内容

- 高齢者在宅福祉サービス活動
- ボランティア活動
- 受託事業
- 地域ネットワーク事業



震災復興で建てた安心コミュニティプラザこの地域では福祉活動の拠点になっている。月見山自治会の第2の会館。

#### ・高齢者在宅福祉サービス活動

病気になっても障害を持っても、その人らしく生きることのできるよう支援

#### 在宅福祉サービス内容

- 掃除
- 庭仕事
- 見守り・話し相手
- 食事づくり
- ゴミ捨て・力仕事・
- 家具の移動・
- かんたんな修理など

～「寝込まないよう、呆けないよう」の支援～

大事なことは利用者さんとの心が通うサービス。基本としているのはサービスの受け手と担い手は対等であるということです。

震災の年はボランティア元年と言われました。今年もボランティアのことを随分言われています。ボランティアは大事なことです、本当にボランティアが良いのかと言われるといろいろ問題があります。一番の問題は、やはりボランティアというのは、「してあげている」という気持ち、受ける人は「してもらっている」という関係がないとはいえません。それを対等な関係にしたいということで、

時間預託の制度を作りました。利用者からは、1時間 600 円のお金をいただいて、ワーカーさんには 500 円、100 円だけだんらの事務手数料となります。年間 3,000 時間活動しても 30 万円しかだんらには収入がないわけで、団体運営費が大きな問題ではあります。



今までは自分でやっていたことが、年をとってできなくなった方が増えてくる。枝きりや草抜きは、男の方や神戸大学の学生さんなどにやってもらっている。

#### ワーカー研修



研修「高齢者疑似体験」



研修「家事援助と調理」

大事にしているのは、まずみんなが高齢者障害者の立場になることです。錘を入れたベストを着たり、足首や手首などに装具をはめて動きにくくしたり、視野が狭くなったりぼんやり見えたりする見えにくいめがねをかけたりなどの体験をします。

お料理をしてもらうときに、「本当にこの人は自分が言ったとおりに料理してくれるのか」と不安になります。家事援助と調理の研修では、「材料はこれだけ。この材料で、こういうものを作ってほしい」味付けまで注文をつけて、限られた時間の中で、2~3 グループをつくって、どれだけ利用者さんの思われているお料理ができるかという研修をします。決しておいしいものを作る研修ではありません。

また、定年退職でリタイヤされた方が、地域に戻ってきたものの何をしたらいいのかわからないという人たちのために、「地域デビューのために」という講座をしました。



地域デビューのために

## ・ボランティア活動



ボランティア活動では、特養「あいハート須磨」の厨房と協働して、「花みずき会配食サービス」という名前でを行っています。配食は厨房の関係で週に一回 20 食までとなっていますが、保温容器に入れて温かいものは温かいまま、冷たいものは冷たいまま届くように、車や自転車で運んでいます。

また、特別養護老人ホーム「あいハート須磨」でのシーツ交換ボランティアや、デイサービスのボランティアを行なっています。

## ・受託事業

### ふれあい喫茶“ぶらら”

稲葉プラザふれあい協議会より委託

火～金曜日 10～12時 14時～16時

### 生きがい対応型デイサービス”稲葉サロン“

神戸市委託事業 月曜 10～12時

### 稲葉プラザ運営管理

稲葉プラザふれあい協議会より委託



月1回のお呈茶の日、お抹茶とお菓子でおもてなしをしています。



デイサービスでは保育所との交流や、いろいろなことをして遊んだり、できるだけ頭を動かせるよう、計算したり漢字を書いたり、本を読んだりしてもらっています。

## ・地域ネットワーク事業

1994年、一番初めに取り組んだ映画会では、行政は「一部のところだけに協力はできない」と一切関わってくれませんでした。1997年に2回目も自分たちで開催しましたが、2回の映画会が認められたのか、須磨区社会福祉協議会のほうから、「だんらんの持っているノウハウを貸してください」とお話をいただき、資金を援助してくださいました。



須磨区社会福祉協議会と協働で福祉映画会を開催

その後、2002年10月「ちぎれ雲」の映画会では、特別養護老人ホーム「あいハート須磨」、須磨区社会福祉協議会、「西須磨だんらん」の三者で開催することができました。



県の委託を受けて「新ふるさとマップ～西須磨・私たちのまち～」を作成した。

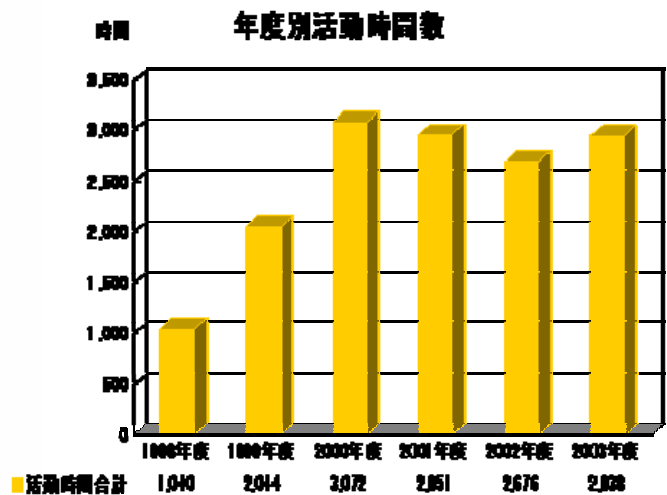
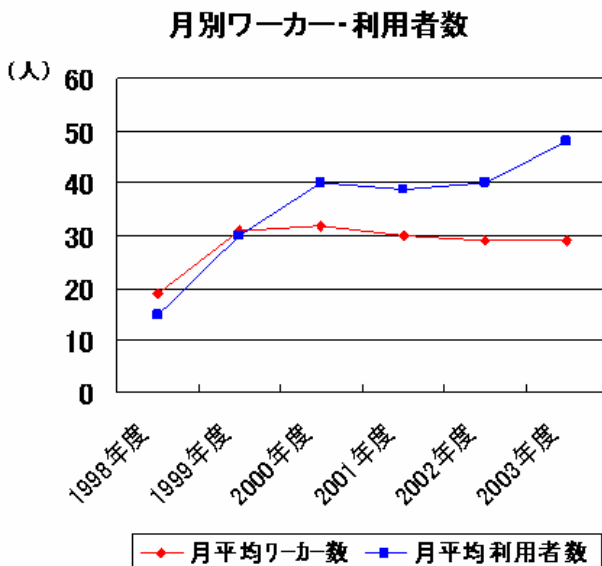


自治会夏祭りステージ出演

デイサービスにこられている方が、歌やハンドベルなどを披露する。

#### だんらん活動データより

当初ワーカーは、19人からスタートし、2000年度から30人前後でやっていますが、利用者は当初からくらべると2倍以上になっています。はじめは地域の人ができるときにできることをしておきましょうというボランティアだったのですが、今は週に何時間も活動している人がいるので、内容はずいぶん変わっています。



右図の時間数ですが、2000年は介護保険が入った年で、介護保険がどういうものかはっきりしていなかったため時間数が多く、その後介護保険を利用する人が多くなり少し減少しましたが、これは今後もすぐ変動があります。

## だんらん概要

|                            |  |  |            |            |       |            |          |       |         |          |       |            |            |       |       |            |       |
|----------------------------|--|--|------------|------------|-------|------------|----------|-------|---------|----------|-------|------------|------------|-------|-------|------------|-------|
| 会員                         |  | 会員 231人(男46・女185 / 正会員171・利用会員60)<br>賛助会員 46会員(個人42人・団体4団体)  |            |            |       |            |          |       |         |          |       |            |            |       |       |            |       |
| 運営体制                       | 役員   | 理事長 副理事長 理事11名 監事2名  |            |            |       |            |          |       |         |          |       |            |            |       |       |            |       |
|                            | スタッフ   | 事務局長 専従事務員 常勤スタッフ 非常勤スタッフ2人  |            |            |       |            |          |       |         |          |       |            |            |       |       |            |       |
|                            | 会議   | 会員総会 理事会 常任理事会<br>コーディネーター会議 ワーカー定例会   |            |            |       |            |          |       |         |          |       |            |            |       |       |            |       |
| 事業規模<br>(2003年度)<br>約850万円 | 収入   | <table> <tr> <td>会費収入</td> <td>1,237,000円</td> <td>14.7%</td> </tr> <tr> <td>寄付金</td> <td>563,000円</td> <td>6.7%</td> </tr> <tr> <td>助成金</td> <td>940,000円</td> <td>11.2%</td> </tr> <tr> <td>事業収入</td> <td>2,395,000円</td> <td>28.5%</td> </tr> <tr> <td>委託事業費</td> <td>3,265,000円</td> <td>38.9%</td> </tr> </table> | 会費収入       | 1,237,000円 | 14.7% | 寄付金        | 563,000円 | 6.7%  | 助成金     | 940,000円 | 11.2% | 事業収入       | 2,395,000円 | 28.5% | 委託事業費 | 3,265,000円 | 38.9% |
|                            | 会費収入   | 1,237,000円   | 14.7%      |            |       |            |          |       |         |          |       |            |            |       |       |            |       |
| 寄付金                        | 563,000円   | 6.7%   |            |            |       |            |          |       |         |          |       |            |            |       |       |            |       |
| 助成金                        | 940,000円   | 11.2%  |            |            |       |            |          |       |         |          |       |            |            |       |       |            |       |
| 事業収入                       | 2,395,000円   | 28.5%  |            |            |       |            |          |       |         |          |       |            |            |       |       |            |       |
| 委託事業費                      | 3,265,000円   | 38.9%  |            |            |       |            |          |       |         |          |       |            |            |       |       |            |       |
| 支出                         | <table> <tr> <td>事業費</td> <td>3,724,000円</td> <td>43.7%</td> </tr> <tr> <td>委託事業費</td> <td>2,618,000円</td> <td>30.7%</td> </tr> <tr> <td>情報発信費</td> <td>60,000円</td> <td>0.7%</td> </tr> <tr> <td>一般管理費</td> <td>2,122,000円</td> <td>24.9%</td> </tr> </table> | 事業費  | 3,724,000円 | 43.7%      | 委託事業費 | 2,618,000円 | 30.7%    | 情報発信費 | 60,000円 | 0.7%     | 一般管理費 | 2,122,000円 | 24.9%      |       |       |            |       |
| 事業費                        | 3,724,000円   | 43.7%  |            |            |       |            |          |       |         |          |       |            |            |       |       |            |       |
| 委託事業費                      | 2,618,000円   | 30.7%  |            |            |       |            |          |       |         |          |       |            |            |       |       |            |       |
| 情報発信費                      | 60,000円  | 0.7%   |            |            |       |            |          |       |         |          |       |            |            |       |       |            |       |
| 一般管理費                      | 2,122,000円   | 24.9%  |            |            |       |            |          |       |         |          |       |            |            |       |       |            |       |

人件費がほとんど払われていないので、約850万円の規模でこれだけの事業が展開できています。

住み慣れたまちで～最後まで安心して暮らせるために～



海と山に囲まれた西須磨

だんらんが対称にしている地域は1万世帯、人口25,000人くらいの古い町です。山の北側の新しいところは、行政も力を入れ、若い人たちがたくさん住んでいます。ところが、西須磨にはなかなか力を入れてくれないので、たとえば地域福祉センターも一箇所しかなかったり、子どもたちの施設というのがほとんどない、かろうじて1箇所あった保育所も、ニーズがないだろうと2駅はなれたところに吸収されたりと、ますます年寄りばかりの町になる環境にあります。

できるだけ最後まで住み慣れた地域で住めるような支援ができたらと思っています。たとえば、痴呆がひどくなり家の近くのグループホームに入ることになった一人暮らしの方への支援では、元の家に犬を3匹飼っていて、施設に行っても犬には毎日会いたいとおっしゃるので、交代で毎日施設に迎えに行き、家につれて帰り、犬と過ごす時間をとってもらっています。「ここまでやるのか」という人もいるけれど、こういうことが「最後まで住み慣れたまちで住み続ける」ということなのかなと思っています。

西須磨だんらんの課題～NPO法人として責任と継続性を持った活動を～

現在4000部ほどのニュースを100箇所のステーションにもって行き、その周りに配ってもらっていますが、対象地域に1万世帯あるところに、4000部ではまだまだ広報は十分ではありません。民生委員の制度も何年か前に規約が変更されていますが、民生委員が対応されるのは一人暮らしの高齢者だけで、お昼間お一人で暮らしている方、高齢者のご夫妻なども問題を抱えています。だからできれば、施設、社協、事業所、地域密着型NPOとのネットワークをぜひ作ってほしいというのだけれど、そんな

難しいことはなかなかできないと言われて 3~4 年たっています。大事なことは、地域の中でいろんな人たちが情報公開しながら活動をやっていくことだと思っています。

### 西須磨だんらの課題 NPO 法人として、責任と継続性をもった活動を 続けていくために

- 財源
- だんらん活動協力者(ワーカーさん)
- 次世代継承者
- 西須磨だんらん活動のアピール
- 小地域の中でのネットワーク

2025 年には 3 人に 1 人が 65 歳以上という社会になっていきます。介護保険が始まって 4 年になりますが、問題もあり、来年制度を見直すことになっています。高齢化につれて、これからは使う人ばかりで払う人があまりいないという状況になります。特に要支援と要介護の人が、介護保険制度を利用している人の半分以上も占めているので、本当にサービスが必要な人が使っているのだろうかという話があります。また、軽度の頃からサービスを受けることによって、かえって自立を妨げているのではないかと、業者のほうが進めるから、使ってしまうというのではとも言われています。デイサービスをもっと増やそうという意見もあります。

介護保険を使う人ばかりが増えていかないように、元気なお年寄りができるだけ元気でいられるよう支援する・・・それが「地域の中での取り組み」だと思っています。その人たち自身も受身ではなくて、自分も活動しながらするというので、生き生きと暮らせるのではないかと考えています。

私たちの活動は介護保険の事業ではないので、そういう意味では補助金など少ないです。私たちのような活動は、どこかで助成金や委託事業をとるなど、よっぽど努力しないと活動資金がありません。介護保険外の活動にももう少し行政が目を向けて、少しでも良いから助成制度をしてくれれば、介護保険を無駄に使わなくて良いのではないかと考えています。この頃いろんなところでそんな話をすると、賛成してくれる人が増えてきたように思います。

高齢者の 80%はお元気だといわれています。介護保険を使われている方は本当のところ 1~2 割くらいらしいです。だから高齢者が増えていくこの時代に、80%のお年寄りが元気でいられるように、地域の中でみんなと一緒に活動することが大切なのではないかと思っています。年をとったり、障害を持って、できる限りその人らしい生き方を支援できるのは、いろいろな事情を知っている地域の人なのではないかと思うからです。

今は地方分権の時代といわれています。その地域、地域でそれぞれの特性があります。地域での助け合いがこれからの時代はもっともっと大切になってくると思います。私たちだけでは何も変わりませんが、あちこちでそういう動きが増えてきたら、行政も動いてくれるのではないかなと思います。そして、地域の中で必要と思われることに地方の行政がもっと目を向けて、お金を使っていくという形になって行ってくれば良いなと思います。

できる人ができる時にできることを

#### ・時間預託

だんらんでは「時間預託カード」というのがあります。30 分サービスをすると 1 点、100 時間は時間預託してくださいということで始めました。ある人から「その 100 時間は寄付をするのですか?」と聞かれました。時間預託とは寄付ではなく、「できる人ができる時にできることを」した時間を預託して、今



度自分ができなくなったときにそれを使うと言うシステムです。アメリカの「タイムダラー」の事例や、四国のほうにもこういう活動をしているところがあるようです。初めてその話を聞いた時、「時間預託したところでその後その団体がなくなってしまうらどうするのか？」という心配があったのですが、その後「さわやか福祉財団(=そこは時間預託の制度をとっている)」の研修で聞いた話では、たとえば神戸に住んでいて時間預託をして、名古屋に引越したときにそれを使えるシステムにしようという話でした。それなら大丈夫とだんらんにも取り入れてみようと思いましたが、時間預託の単位がそれぞれで違うので、うまく行かないと思いました。だんらんでは、活動を限られた地域でやっているの、時間預託された分は地域の中のふれあい喫茶でコーヒーを飲むときや研修の時などいろんな行事のときに使えるようにしています。1点300円で、そのうち事務手数料として50円がだんらんに入るので、本人が持っているのは1点250円として換算されるしくみです。時間預託が100時間過ぎてからは、お金に換えることができます。100時間で5万円になる計算です。割りとたくさん活動しているほうの人でも1ヶ月20時間くらいの活動時間なので、換金できるまでには5ヶ月くらいかかってしまいます。とてもささやかなのですが、でも5万円もらえるとうれしい!!

サービスを受ける利用者さんには、1点が30分、1冊10枚つづりで3000円のチケットを買ってもらっています。利用者はワーカーさんに1時間サービスを受けると2点分のチケットを渡します。ワーカーはそれを事務局に持って帰ってきて、時間預託カードにはんこを押すという流れになっています。

#### ・だんらんの仕組みと課題

福祉ネットだんらんのサービスを受けたいと言う人はだんらんに登録してもらいます。登録の形は、利用会員、協力会員(法人取得後は「正会員」と名称変更)、賛助会員の3種類です。“お互いに助け合っで・・・”なので、「利用会員」、「協力会員」とも年会費3,000円と登録費2,000円、初年度は計5,000円を支払ってもらいます。「賛助会員」は一口1万円、利用も協力もできないが、お金を出して支援をしましょうと言う資金援助の形です。「利用会員」は、サービスを受ける内容を選び、だんらんの5人のコーディネーターが話し合っで、利用者とワーカーのマッチングを行います。「協力会員」はワーカーとして登録してもらい、コーディネーターから頼まれた「自分のできる」仕事をします。

利用者さんにとってだんらんでサービスを受けることは、介護保険を使う場合1割負担なので、それよりも値段が高くなります。しかし介護保険ではお風呂は週に1回、掃除は週に何回、デイサービスは何回など、時間が限られています。そこで枠外のサービスを受けたいと思うと全額負担になるので、その部分はだんらんに・・・となるのです。

しかし、サービス提供者のワーカーにとって1時間600円(そのうち100円は事務手数料として引かれる)と言うのは安すぎる値段です。だから初めに「ボランティア精神」ということを話します。100時間の時間預託と言うのも、「ボランティア精神」を持って、いい地域を作るということを大切にする人にワーカーになってほしいと思っているからです。しかしそうなると、参加する人が限定されてしまいます。だんらん側としてはできれば4~50代の方に協力してほしいと願っていますが、その年代の人たちはまだ子どもの教育費などを抱えている世代なので、働かなら少しでも高いところで働きたいからなかなか参加できません。参加してくれる人の多くは、60代位で子どもも結婚して、何か地域に役に立ちたいなという人です。活動当初に比べるともう少し若い世代の人が増えてきてはいますが、今の人数では足りなく、利用依頼をたくさんお断りしているのが心苦しいところです。

だんらん側の問題としては、100円だけの事務手数料で年間30万くらい位の収入になりますが、そ

れだけでは団体を運営してはいけません。活動を続けていく為に、初めの趣旨を貫きながらやはり介護保険の事業指定に入ろうかと考えたりもします。なかなか NPO を運営することは難しいです。

昨年、区役所の地域提案型助成制度に地域見守り活動をするということで初めて申請し、助成をいただきました。今年は「高齢者の福祉ニーズがどういうものか」を知るアンケート調査で、はぁーとふるふぁんどの助成をいただいています。福祉ニーズを知ることで私たちは何をしなければならないかを考えていこうと思っています。このアンケートの結果はまだ出ていませんが、明舞の「ひまわり食堂」のように、高齢者の方が気軽に行き食事ができるたまり場のようところがほしいという話があるようです。70人くらいの方がこられる「つきみそう食事会」や約30人の方が来られる「稲葉プラザの食事会」では、参加者は本当に楽しみにされています。他のNPOでは1回2,000円の「ご馳走食事会」というのもあり、すごく人気だそうです。高齢者だからと言って安い食事会ばかりではなく、たまには豪華な食事を食べる食事会があってもいいという要望もあるようです。地域で元気に暮らすためにはふれあい喫茶や食事会というものが地域の中で必要だと思っています。

住民全体の意識を変えるというのは本当に大変なことです。私は自治会報作成やだんらんの会報作りなどに長く携わってきています。「そんなもの誰が読んでの？」と言われることがあり、悲しい思いをすることも多いですが、本当はそんなことはなく、目だって効果は見えないかも知れませんが、何かの行事があるとたくさんの方が集まって来るということは、希望もあると思います。

行政と一緒にやりたいと思ってはなかなかできませんが、明舞は県の協力があって、いい条件がそろっているのががんばってほしいと思っています。

#### 質疑応答

地域デビューの講座のことについて教えてください

2年くらい前からリタイア後の方たちを対象に、講座(勉強会など)を行なってきていますが、定年後何かできることはないかと思っている男の方の参加が増えてきています。そういう人を含めて地域でデビューの講座を開催しました。地域デビューしようと思っても、地域の活動は女の方が中心になっていることがあるので、長く会社で働いていた方には違和感を感じられることが多いのです。また、男の人は地域に戻ってきても入るきっかけをつかめず、地域の中にもいろんな人がいるのでなかなか入れないので、もし可能なら勉強会などをお持ちになるのもいいかと思っています。

男の料理教室などもどこでも人気があるようです。買い物の仕方や、魚のさばき方、切り方、味付けの仕方など本当に基礎的なことからしようと思っています。もし男の方が奥さんに先立たれたら、料理ができないと大変なので、これは必要なことだと思っています。また、奥さんのお元気なうちに家の中に何がどこにあるかを共有しておくことなど、男の人が家の中で自立できる講座などを考えています。

だんらんと地域の自治会との関係は？

自治会活動から生まれた NPO ということで、日本で初めてだとかで話をさせていただくことがあり

ます。自治会で福祉の活動をしていてその中から独立したわけですが、自治会とはいろんなことで協力関係があります。

月見山自治会では13年前から改革を始めていて、会計をOPENにし、専従の事務局を持ち、組織づくりに力を入れ、自治会自体も法人格をとっています。自治会の事務的なことを専従事務局がやり、福祉や文化の取り組みは各部がやるような仕組みを作り、役員が何もかもするのは大変なので、地域にある専門団体と協力関係を持つという方針を立てました。天井川公園を育てる会とだんらんは、地域の震災復興まちづくり活動(=道路や建物だけでなく、福祉や環境のことも含めてまちづくりをしようという趣旨)から専門的なことをする団体として生まれて、自治会はそういうNPOに助成金を出しています。だんらんも自治会と協力関係でいようという方針があるので、自治会員の人がだんらんの会員になるときは、入会金がいないシステムにしました。

自治会というのは連合自治会形式をとっているか

震災前 西須磨地域には東部、西部、月見山の3つの自治会がありました。震災がきっかけで西部が解散し、小さい単位の自治会が誕生しました。現在西部は町単位の自治会をもっています。

月見山には6つの町があり、そこで連合自治会の形を取っています。

自治会活動は住んでいる人の基本的なことをするところです。自治会活動は大事だけれど本気でやろうと思ったら大変です。ほとんどのところは会長が2年位で変わるようにしているようです。専門的な活動に力をいれようと思うと役員が大変です。

明舞では1年交代で役員が変わる。

1年ではなかなか何もできないと思います。少なくとも2年は必要ではないかと思います。月見山の地域では、震災後大きな道路が地域内に通ることになり、その中で反対運動のなかからまちづくり運動が起こりました。だんらんは今までは月見山自治会だけしか関係を持っていなかったのですが、今年アンケート調査で他の自治会に声をかける機会を持ちました。なかなか勇気がもてなかったのだけれど、結構協力的でした。思い切ってやっていないといけないなと感じました。

民生委員や婦人会が給食サービスをしているようだが、月見山には？

民生委員や婦人会や、個人グループ、自治会などいろんなところがあります。

正会員、利用会員のマッチングはどうしているか？地域であるがゆえに近くの人に來られるのに抵抗がある人がいると思うのだが・・・？

初め、知っている人が家に來られると困ると言われる人がたくさんおられました。月1のワーカー定例会の初めに、誰のところに言ってきたとか、さんがこうしたとか、ちょっと話すと家族関係のこの話にまで発展してしまうので、そういうことはお友達にも外にも一切しないでとっています。どうしてもいいたいことはワーカー定例会で、また、今すぐにといいことはコーディネーターに話すよう

にしてもらっていて、このことでプライバシーを守っています。地域の中でのサービスなので、利用者さんと普段顔を合わすことがあるので、これはすごく大事なことなのです。

だんらんを作ったその年に関西学院のゼミがアンケート調査をしてくれました。“もし利用するとしたら、ワーカーが近所の人、ちょっと離れた人、遠くを人のどれがいいか？”、“ボランティアとして活動するときに近所、ちょっとはなれたところ、遠くのどれがいいか？”という内容でした。結果は、“近所”と“ちょっと離れた人”を選んだ人が8割あり、“遠く”を選んだ人は少なかったのです。実際私たちはできるだけ避けるようにしているが、利用者に「近くの人でいい？」と聞いたら「いや」と言う人はほとんどいないし、噂でも「プライバシーをひどく侵害されて・・・」と言う話もほとんど聞かないのでうまく行っているのではないかとと思っています。

ワーカーが遠くからサービスに来る場合、ワーカーがかけつける交通費がかかるし、迅速な対応ができません。地域の中で助け合うということは、緊急時にすぐ対応ができますし、プライバシーを口外しないとわかれば、近くを人のほうが親身になってもらえると言うメリットがあります。

地域の人が互いに助け合うというのが団体のミッションなので、ワーカーが行って一緒にやることでニーズが達成できることならば、高齢者だけに限らず若い家族のところにも行くことにしています。

だんらんがサービスを展開していることで、地域にもたらした変化みたいなものがあるか？

だんらんがサービスを展開していることで、地域にもたらした変化みたいなものがあるか？

何かにつけて、高齢者福祉に対する考え方がみんなに出てきたというのがあります。たとえば、年をとって家族に迷惑をかけているから、私なんて早く死んでしまいたいという言葉をよく聴いていたが最近では聞かなくなりました。食事会に来る人も生き生きとして、若くなってきたように感じます。

私のお友達の例ですが、お友だちのお母様がお一人で暮らしていらっしゃいました。その方の子どもさんは離れたところに住んでいて、お母さんのところに毎朝食事を届けてからお仕事に出かけ、帰りは買い物届けてから家に帰るということをしていらっしゃいました。外から見ると「一緒に暮らしたら良いのに・・・」と思いますが、お母さんの「一人で暮らしたい」という気持ちを子どもさんは大事にされていました。その方は「自分だけではお母さんのことは心配だけど、自治会での取り組みがあって、みんなが声をかけてくれたり、事情がわかっている人が話しかけてくれる、だんらんがある・・・だから何かあっても安心。」とおっしゃられていました。

その後そのお母さんは亡くなられ、子どもさんは月見山に毎日来る必要がなくなりましたが、最近お仕事をやめられたその方は、週に1回遠くからワーカーとしてだんらんに参加してくださっています。

日常の見守りをしてもらっていると言うことがとても心強いのだなと感じています。地域の中で見てくれているというのは、遠くはなれて暮らしている家族に安心を与えます。高齢者がどんどん増えていくのだからなおさらこういうことが必要になってくるのではないかと感じています。

### 3. 閉会挨拶（依藤庸正：神戸県民局）

今日は自治会活動(地域)から生まれた NPO と言うことで、西須磨だんらんの日埜さんにお話をいただきました。ぜひ明舞団地でも NPO 的な活動が育っていけばと願っています。